

教育広報

かけはし

第12号 平成5年11月24日発行

発行 千代田区教育委員会



「先生 / こんなに大きなおいもが…」 (昌平幼)

主
な
記
事

☆心を一つにしてがんばった
幼稚園・小学校運動会

☆昌平の校・園章と
校歌が決まりました

☆体験を通して学ぶ Part II
—感性をはぐくむ、体で感じ考える—

秋晴れの一日、春に苗を植えた畑へ行って、サツマイモ掘りをしました。

土を手で掘るのは大変でしたが、太くて赤いイモが顔を出した時には、思わず声が出ました。掘ったイモは、大事に袋へ入れました。

*教育広報「かけはし」は資源保護のため再生紙を使用しています。



千代田



千代田富士見



千代田番町



千代田九段



和泉

幼稚園・小学校が新たな出発をして約八か月、日々充実した教育活動が続けられています。
九月の最終日曜日、七校（園）で、一斉に大運動会が開催されました。子供達にとっては、新たな小学校（幼稚園）になって、全員で取り組む最初の行事でした。
例年になく秋雨の続く中、幸いにも快晴に恵まれました。各校（園）とも、新鮮味のあるプログラムをくみ、全幼児・児童が心を一つにして、競技に全力で取り組んでいました。

あんどう会



お茶の水



昌平



千代田麹町

心を一つにしてがんばった
幼稚園・小学校運動会

幼稚園
感性をはぐくむ

体験を通して学ぶ

Part. I



▲サトイモの葉で遊ぶ

秋の自然を 体いっぱい

幼稚園では、月一回程度、園外へ出かけて様々な活動を行います。
秋には、植物園・自然公園・農園などに行きます。そこで、幼児は木や草の実、落ち葉など身の回りの物を「何かに見立て」たり、それらを素材にして物を作ったりして遊びます。
その際、環境からの刺激を、五感を十分に働かせて感じ取り、美しいもの・神秘的なものなどに感動する心が呼び起こされます。



「やぎと狼」に 心ときめく

今年の合同子供会は、グリム童話「狼と七匹のこやぎ」の人形劇でした。
十一月十二日、千代田区公会堂に集まった幼児達は、自分が登場人物になりました。この劇から、親の愛情の深さを感じ取るとともに、自立する心や善悪の判断の大切さを意識していきます。



急速な社会の変化に主体的に対応できる力を身につけるための学習は、これまで以上に多様化しています。学習の場も、校（園）舎内から学区域へ、更に、地域の市街地や各種施設、公園、野山へと広がっています。学習内容・方法も大きく変化しつつあります。
各学校（園）では、子供の発達段階に応じ、体験を重視した適切な学習活動を工夫・実践しています。

感じたことを 形に表現

十一月十日から三日間、千代田九段小学校において、幼稚園・小学校・中学校連合作品展が開催されました。幼稚園の作品は、幼児一人一人が見たこと・感じたこと・考えたことなどをそれぞれ平面や立体に表現し、それを園ごとに構成してあります。
制作の過程や展示物の鑑賞を通して、感動を他の幼児や教師と共有することができます。

昌平の校・園章と校歌が決まりました



昌平幼稚園園章

小学校に準じ、幼稚園らしく双葉（若い葉）を入れた。



昌平小学校校章

「昌平」の文字を図案化し「昌」を中に入れ、まわりを「平」の文字で囲んだ。

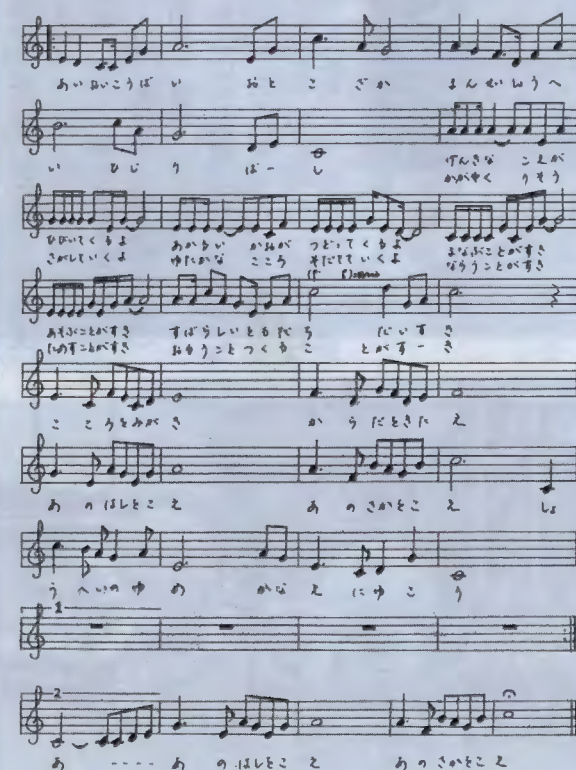
（デザイン 五島治雄氏）

昌平小学校 幼稚園においては、昌平協議会の中に校（園）歌・校（園）章等制定委員会を設置し、「広報千代田」に募集記事を掲載するなどして、校・園歌および校・園章の公募を行ってきました。
校・園章については、公募作品の中から採用することになりましたが、校・園歌は専門家に依頼することとなり、地域にゆかりのある作曲家・作家に依頼することとなり、校歌については黒門町生まれの小椋佳氏に、園歌については千代田区在住の木村利人氏に依頼することになりました。
このたび、このうち校歌と校・園章が決定し、去る十一月三十一日の学芸会において、披露されました。

昌平小学校校歌

「あの橋を超え、あの坂を超え」

作詞 小椋 佳
作曲 小椋 佳



昌平小学校校歌

一、
「あの橋を超え、あの坂を超え」

相生 紅梅 男坂
万世 昌平 聖橋
元気の音が響いてくるよ
明るい顔が 集ってくるよ
学ぶことが好き 遊ぶことが好き
すばらしい 友達 大好き
心を磨き 体を鍛え
あの橋を超え あの坂を超え
昌平の夢 かなえに行こう

二、

相生 紅梅 男坂
万世 昌平 聖橋
輝く理想 探していくよ
豊かな心 育てていくよ
学ぶことが好き 遊ぶことが好き
想うこと 創ることが好き
心を磨き 体を鍛え
あの橋を超え あの坂を超え
昌平の夢 かなえに行こう
あの橋を超え あの坂を超え

小学校 体で感じ考える

— 婦恋自然体験交流教室 —

群馬県婦恋村における自然体験交流教室は、これまで三年間、試行的に一部の学校で実施されてきました。今年からは、小学校八校で完全実施することになりました。

五年生全員が参加し、教室を野外に移して、社会科・理科・図画工作等、教科の総合的な学習を行います。

婦恋村は千代田区の姉妹都市です。児童は村の人々との交流を深めています。

教科の学習を 現地で学びます

五年生の社会科では、日本の産業について学習します。農業については、その現状と、生産を高める工夫や国民生活を支える食料生産の意味

について調べ、考えます。

農業生産は、地形・気候などの自然環境や、労働力、消費等と深く関係します。それを婦恋村のキャベツやジャガイモ、トウモロコシなどの生産という具体的な事例を通して調



▲キャベツの苗を植える



▲秋の野山をスケッチ



▲トウモロコシの種まき(春)

べ、考えます。そのことによって、農業以外の産業についても学習の仕方が身につく、主体的な学習ができるようになります。

理科の植物の成長や浅間山などの大自然の中での観察についても同様で、この体験が児童の学習に対する関心・意欲を高めます。

**春と秋の
二回実施します**

山頂に雪が残っている五月と、紅葉の美しい十月に現地学習を行います。春の種まきや苗植え、秋の収穫や畑の整理、自然と触れ合う様々な活動は、東京では味わうことのできない貴重な体験です。

人間の生活が、自然と深くかかわっていることを肌で感ずることができるとともに、児童に考える素材を提供してきます。



▲枯れた茎を抜き畑の整理(秋)



▲ジャガイモの収穫(秋)



▲交流校の友達と協力してジャガイモの植えつけ(春)

婦恋の人々との 交流を行います

婦恋村には小学校が五校あります。また、婦恋村教育委員会や地域の方々が、この自然体験交流教室を支援してくださっています。千代田区の八校は、つぎのような交流を行っています。

千代田麴町小学校 — 東小学校
千代田九段小学校 — 西小学校
お茶の水小学校 — 鎌原小学校
千代田小学校 — 田代小学校
昌平小学校 — 千俣小学校
千代田番町小学校 — 田代交友会
千代田富士見小学校 — 田代交友会
和泉小学校



▲田代交友会のおじさんの指導の下に



▲「さようなら…」



▲農園主にリンゴ栽培の工夫を聞く



▲収穫したイモをゆで、みんなで食べる

婦恋に行つて

五年 宝居 篤子

私は、五年生になつて、婦恋に行きました。春には、田代小の人達と友達になりました。キャベツの苗やジャガイモを植えました。その後、田代の友達と、キツクベースをしました。とても楽しかったです。帰る時、バスの窓から手をいっぱいふつて別れました。私は、「もう少し婦恋にいたかったなあ。」と思いました。秋には、すっかり親しくなつた田代小の人と再会しました。一緒にジャガイモを取りながら友情を深めました。給食の時に、私達のために、おしんこを持ってきてくれたのがとてもうれしかったです。それから、みんなでバスケットボールをして楽しみました。



私は、自然がいっぱいのこんなすばらしい所で、いい友達が増えて、とてもうれしいです。来年、田代小の友達に東京で会えるのが楽しみです。(千代田小学校)

今年も新記録誕生

中学校水泳記録会

九月七日、一橋中学校で行われた記録会では、男子自由型で新記録が一つ誕生しました。

小学校の水泳記録会は、雨天に災いされ、屋外のプールは中止になり、新記録は生まれませんでした。

小・中陸上競技大会

例年通り、国立競技場で開催されました。今年は、群馬県婦恋村の中学生が初めてオープン参加しました。三種目で新記録が生まれました。

平成5年度 中学校水泳記録会新記録

種目	校名	氏名	記録
中.3年男子 200m自由形	一橋中	白井 直樹	2分04秒29

平成5年度 小・中陸上競技大会新記録

小.5年女子 走幅跳	千代田 麴町小	岩崎ふみ子	3.79m
小.6年男子 走幅跳	千代田 番町小	入江 孝徳	4.54m
中.3年男子 砲丸投	一橋中	新井 康之	13.83m

随想

きょういく

「七歳までは神のうち」

これは日本古来の幼児観だ。「神の子」である幼児期は伸び伸び過ごさせ、児童期を迎えると一転、厳格な躾をした。

織田信長に信頼された宣教師・フロイスは「日本の子供は十歳にして使者に立つ」ことに目を見張り、折り目正しい立居振舞を絶賛している。

西欧では子供は「小さな猛獣」だから幼少時の躾は厳しい。聖書も「鞭を加えざる者は、子を憎むなり」と体罰を容認している。そして自主性・自律性の伸長に伴い、規制を緩めて子供の自由の幅を広げていく。「規律と自由のバランス」は、子供の発達段階に応じて身に付けなければならない、重要な課題である。

ここで「厳父慈母」という古語を思い出した。厳父は優秀・善悪のけじめを明確にして「権威・秩序の感覚」を培う存在、慈母は優しさ・暖かさを基調にして「愛情・信頼の感覚」の源泉となる存在、と抑えておく。

出来が悪ければ、弁解無用、やり直しを命じるのが厳父。子供の言い分に耳を傾け、慰め励まし気力の回復を待つのが慈母。子供を谷底へ蹴

落とす「巖頭の獅子」、迷える子羊に「類擦りする羊飼いのイメージだ。男女の役割固定ではない。厳母慈父でも一人二役でも構わない。要は厳父・慈母の「存在」が、セットになっていることが大切なのである。

最近父親の影が薄くなった。強

厳父の出番です

横山 安宏



くなったと言われる母親も、成績に一喜一憂するテスト・ママ、先回りして邪魔物を取り除く過保護ママ、育児・教育を外部委託するお任せママ：等が目立つ。厳父の役目を果たしている母親は少数派だろう。（ここでは慈母には触れない）

厳父がいなくなれば「けじめ」があいまいになる。一例は企業の新入社員研修、実務よりマナーが先だ。

大学卒業生にお辞儀の仕方を教えるという滑稽な光景が、珍しくなくなった。また、入社一・二ヵ月後、新しい環境への適応不安からパニック状態に陥る新入社員も増えた。いわゆる「五月病」である。

強制される、叱られる、罰せられる、そんな経験が乏しい若者が、突如、身勝手な顧客、頑固な上司、虫の好かない同僚等がいつばいいる実社会の荒波に揉まれば、五月病になっても不思議ではない。

子供の減少傾向が続く。子供は文字通り一粒種だから、周囲の大人がご機嫌を取る。甘い子育てが青少年にまで及んできた。甘口の料理に慣れれば辛味や苦味を知らない子になる。将来辛い思いをするのは子供だ。「上手に尻を叩かれた者は、尻餅をつくことがない」というフランスの諺は、辛口だが栄養価は高い。

よこやま やすひろ
千代田区教育委員
前区立小学校長・園長

随想

わがこころ

編集後記

「かけはし」の届くのを楽しみにしています。」「千代田区の教育の現状がよくわかります。」と、発行のたびごとに、数人の方からお便りやお電話をいただき、編集子の励みになっています。

今、「新しい学力観」の名のもとに、社会の変化に主体的に対応できる人間の育成を目指して、教育改革が進められています。

千代田区の幼稚園・小学校・中学校の先生方は、日々熱心に教育内容・方法の工夫改善に取り組んでいます。また、教育委員会でも、各種委員会を組織して検討を進めたり、教育環境の整備を行ったりしています。

第十二号の「体験を通して学ぶPart.Ⅱ」も、その一面をお伝えするという意図を持っています。

「かけはし」についてのご意見・ご感想・ご要望を、お寄せください。

教育広報「かけはし」第十二号
平成5年11月24日発行

編集発行／千代田区教育委員会

〒102 千代田区九段南1-6-11

☎(03)6694-0151 内線114